第7回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査について

本資料は標記調査の広報を目的として作成したものです。
正式な内容は巻末に掲載した参考文献をご参照ください。

令和4年3月31日

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構

《調査の概要》

本調査は、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活実態と生きがいに関する考え方を探るために、平成3年（1991年）から5年ごとに実施してきたアンケートです。今回は第7回目の調査にあたります。

１．本調査の主な目的

①定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいの関連を分析し、そのあり方を探る。

②社会情勢や経済環境、雇用環境の変化、世代の推移の中で、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方の変遷を明らかにする。

２．調査事項

「回答者の基本属性」、「公的年金・企業年金の加入等の状況」、「家族」、「住まい」、「仕事」、「自由時間」、「地域活動・社会活動」、「生活の満足度」、「生きがい」、「退職・引退」、「家計」、「介護」、「ライフプランセミナー」に関することを調査。

３．調査対象者

35～74歳までの「サラリーマン」男女及び「サラリーマンの配偶者」4,998人※

- ✓「サラリーマン」：企業及び役所の在職者（国民年金第2号被保険者）とその経験者
- ✓「サラリーマンの配偶者」：国民年金第3号被保険者の女性及び国民年金第3号被保険者だった女性

※公的年金や企業年金の実績に基づき、「性別」、「年齢階級別(5歳刻み)」、「公的年金又は企業年金への加入状況別」の区分ごとに回収目標数を定めている。

４．調査方法

全国を対象地域とするインターネット調査。令和3(2021)年8月19日～24日実施。

《調査研究体制》

年金シニアプラン総合研究機構では、本調査に際して研究会を組織しました。

【名称】第7回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査研究会

【目的】「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を利用して、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するとともにそのあり方を探り、サラリーマンの退職後の生活に向けた支援策や生きがいを持って生活ができる政策の提言に結びつけること。

【メンバー】 座長　高山憲之　年金シニアプラン総合研究機構理事長／一橋大学名誉教授

委員（五十音順、敬称略）

大風薫　　京都ノートルダム女子大学現代人間学部准教授
神原理　　専修大学商学部教授
菅谷和宏　三菱UFJ信託銀行株式会社年金コンサルティング部上席研究員
丸山桂　　上智大学総合人間科学部教授

事務局

吉野隆之（専務理事）*、板谷英彦（専務理事）**、山本進（審議役）、
福山圭一（上席研究員）、長野誠治（総務企画部長）、朝緑尚一（参事）、
石尾勝（特任研究員）、平河茉璃絵（研究員）

*令和3年6月24日まで　**令和3年6月24日から

【開催実績】 第1回　令和3年6月22日、 第2回　10月14日、 第3回　12月23日
いずれも当機構会議室（ZOOM併用）にて開催。

調査研究の成果　目次

《第7回調査結果から》
生きがいとは何か、生きがいの有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
生きがいを感じること ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
生活の満足度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
配偶者・パートナーとの関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
自由時間が十分か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

《時系列比較》
「生きがい」の意味 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
生きがいの有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
生きがいの内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

《団塊の世代の時系列比較》
団塊の世代における生きがいの有無の変遷 ・・・・・・・・・・ 13
団塊の世代における「生きがい」の意味の変遷 ・・・・・・・・ 14
団塊の世代における生きがいの内容の変遷 ・・・・・・・・・・ 15

《サラリーマンのワークライフバランス》
ワークライフバランスに関する典型的な３つのクラスター ・・ 16
３つのクラスターの特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

《生きがいとメンタルヘルス》
生きがい保有の規定要因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
生きがいの対象とメンタルヘルス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
「ひとり気ままにすごすことが生きがい」の規定要因 ・・・・・ 20
生きがいの対象、資産形成、メンタルヘルスの関連 ・・・・ 21

《生きがいと生活満足度》
生活満足度を規定しうる要因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
生きがい保有と各生活満足度の関連性 ・・・・・・・・・・・・・ 23

《資産形成と生きがい》
資産形成と生活満足度の関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

《女性のライフコースの多様化と老後の所得保障》
配偶関係や現役時代の働き方と完全引退後の家計 ・・ 25
高齢世帯の収入源 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

《新型コロナウイルス流行前との比較》
仕事の満足度の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
配偶者・パートナーとの関係の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

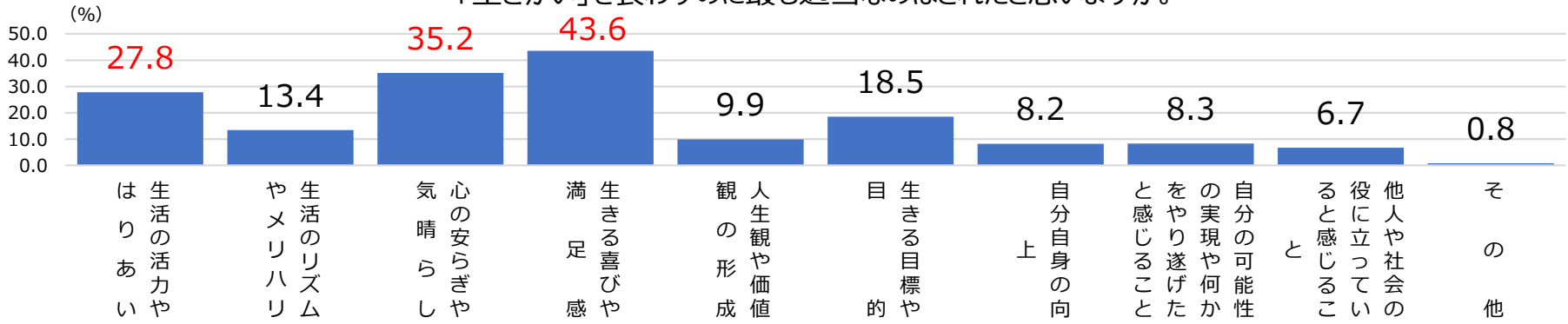
《ライフプランセミナーで学びたいこと》
ライフプランセミナーで学びたいこと（１） ・・・・・・・・・・・・ 29
ライフプランセミナーで学びたいこと（２） ・・・・・・・・・・・・ 30

《第7回調査結果から》

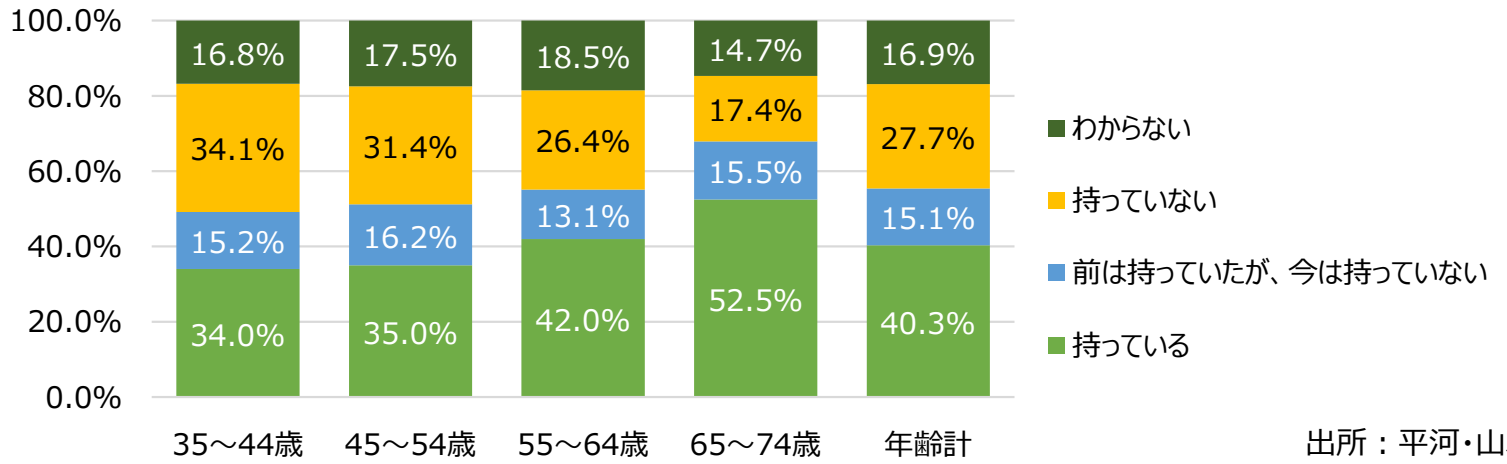
生きがいとは何か、生きがいの有無

□ 生きがいを表すのに最も当てはまる項目は、全般的に「生きる喜びや満足感」「心の安らぎや気晴らし」「生活の活力」との回答が多い。そして、このような生きがいを持つのは、65歳以上の男女では5割以上であるが、64歳以下の男女では3割から4割強にとどまる。

「生きがい」を表わすのに最も適当なのはどれだと思いますか。



生きがいを持っていますか



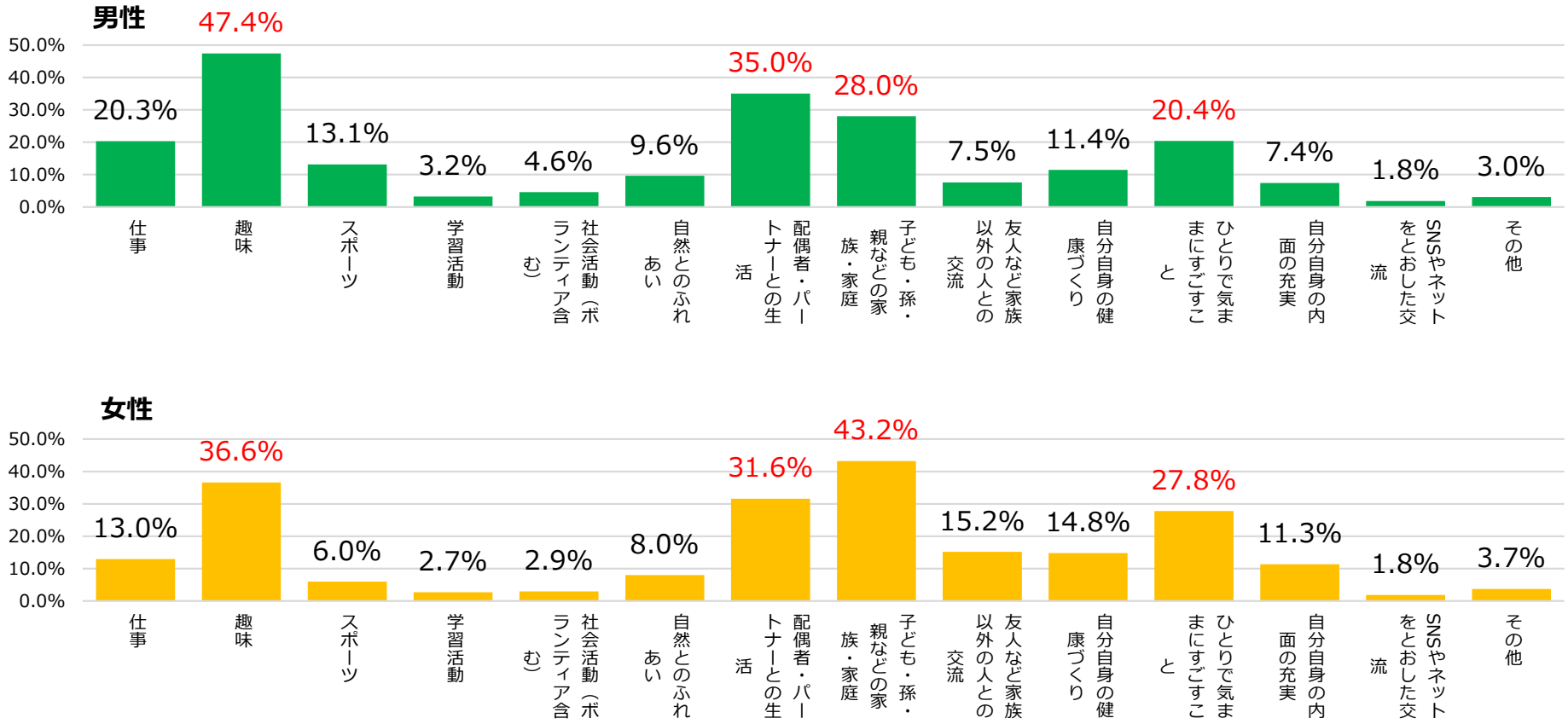
出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

《第7回調査結果から》

生きがいを感じること

□　生きがいを感じることは、全般的に「趣味」「配偶者・パートナーとの生活」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「ひとりで気ままに過ごすこと」との回答が多い。男性では「趣味」との回答が多く、女性では「子ども・孫・親などの家族・家庭」との回答が多い。

どのようなことに生きがいを感じているか（○は３つまで）

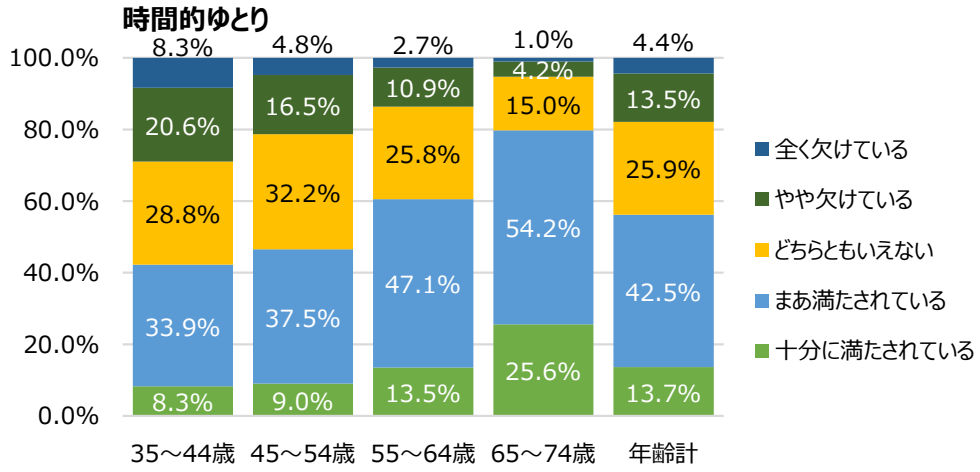


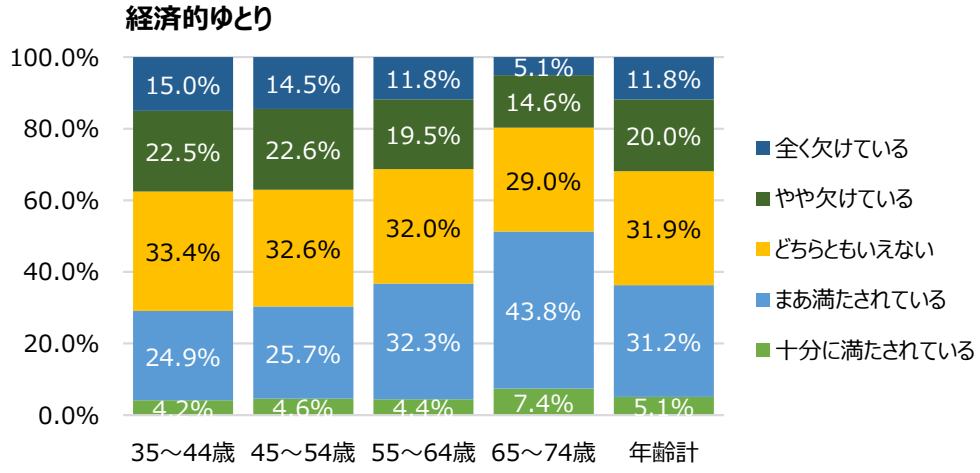
出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

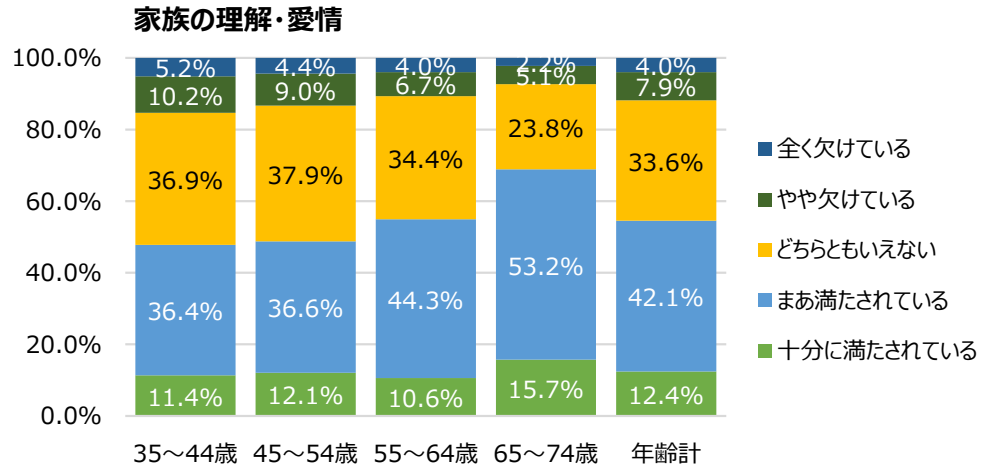
《第7回調査結果から》

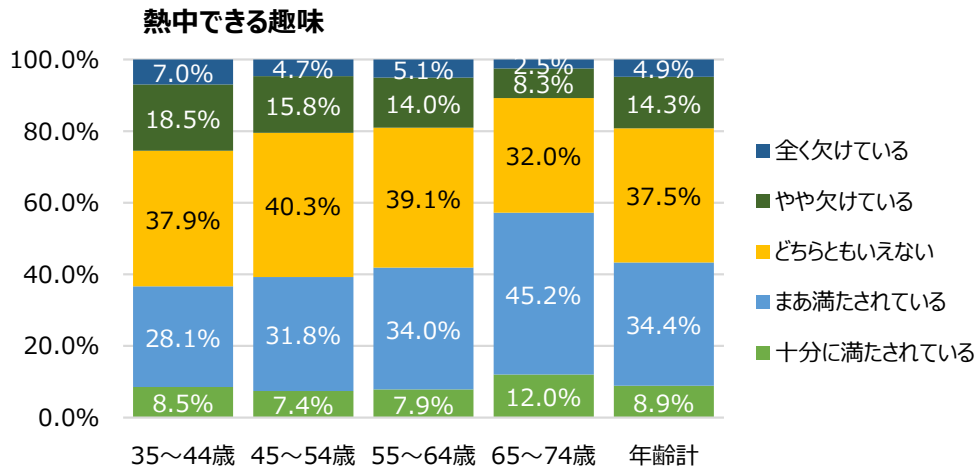
生活の満足度

□ 「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」「家族の理解・愛情」「熱中できる趣味」などは全般的に満足度が高い。これらの項目では、年齢が高まるにつれて満足度は高くなる傾向にある。









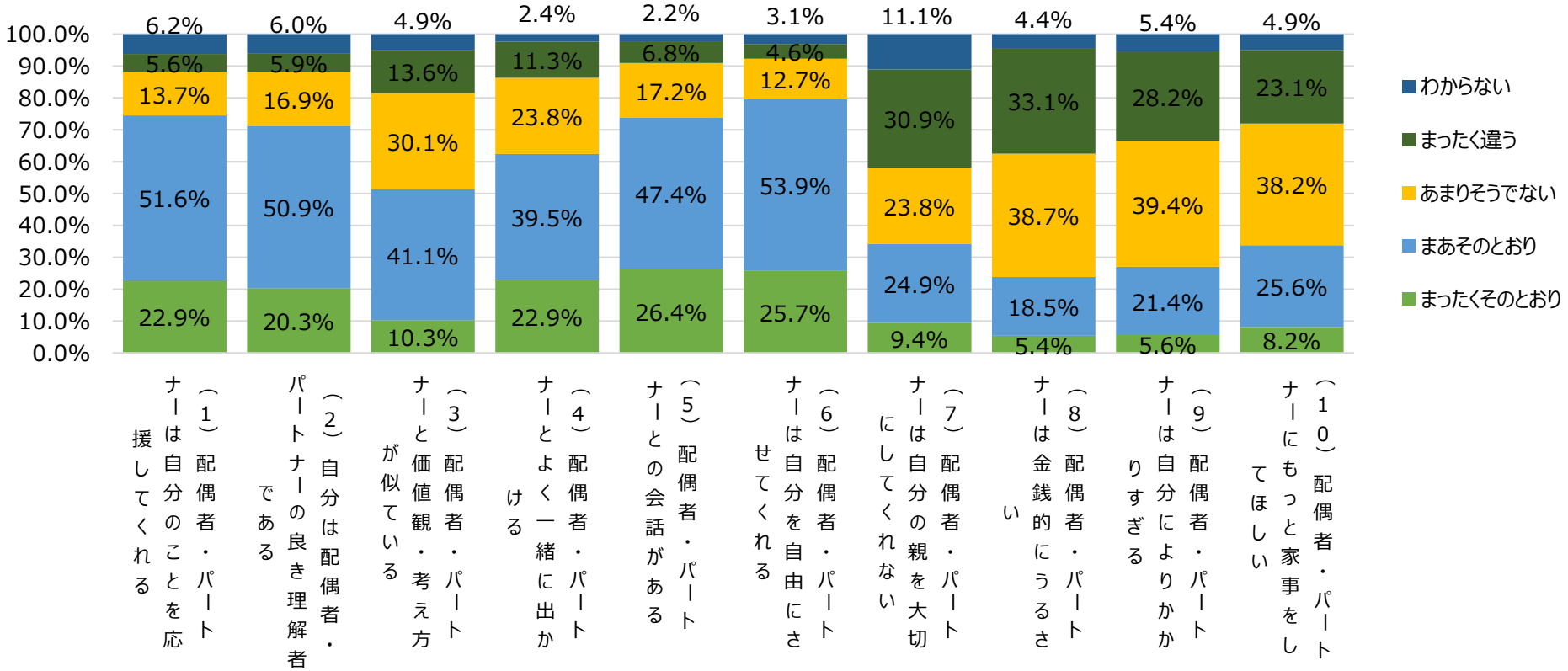
出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

《第7回調査結果から》

配偶者・パートナーとの関係

□　日頃の配偶者・パートナーとの関係に対して、全般的に「自分のことを応援してくれる」「自分は配偶者・パートナーの良き理解者である」といったポジティブな項目に関しては肯定的な回答が多く、「配偶者・パートナーは金銭的にうるさい」「配偶者・パートナーは自分によりかかりすぎている」といったネガティブな項目に関しては否定的な回答が多かった。配偶者・パートナーとの関係は概ね良好と考えられる。

日頃の配偶者・パートナーとの関係の感じ方



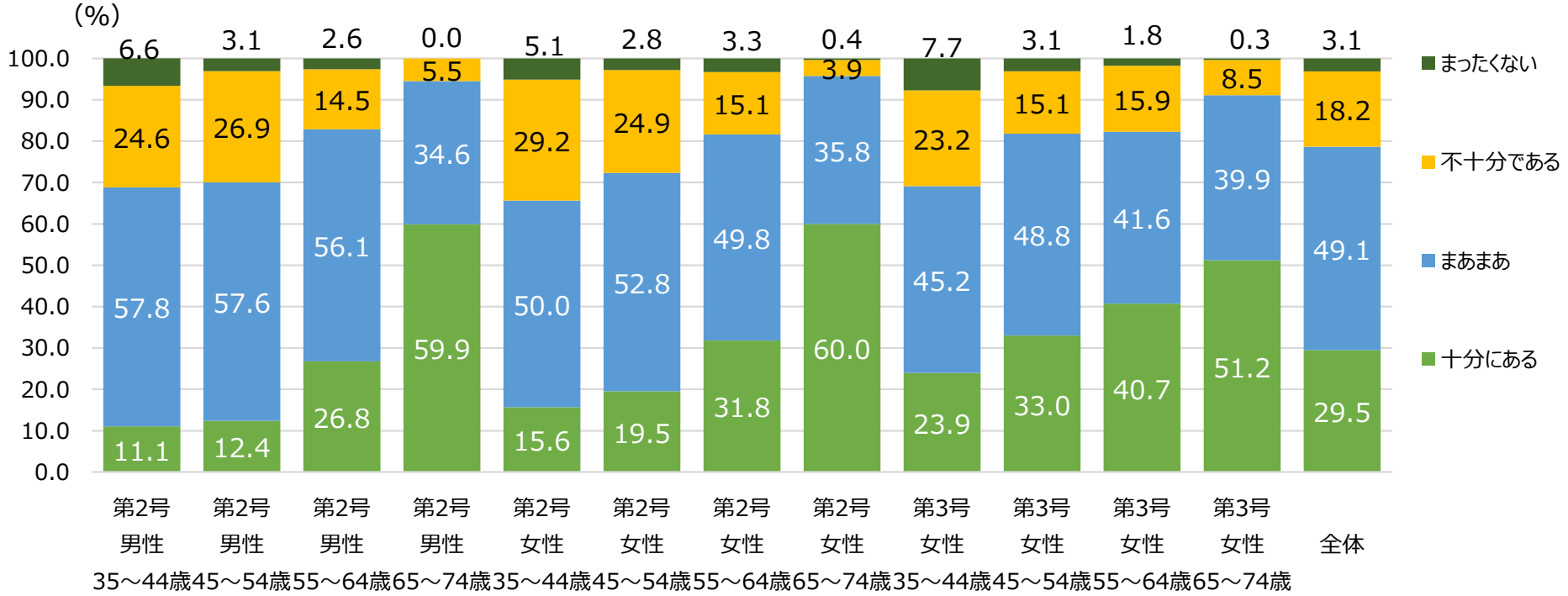
出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

《第7回調査結果から》

自由時間が十分か

□　自由時間はそれなりに確保されている。ただし、若い年齢階層では不十分だという回答が多く、特に35～44歳の第2号被保険者女性は約3割が自由に使える時間が不十分だと回答した。

日頃、自由に使える時間が十分にあるか



出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

（注）ここでの第2号被保険者とは、国民年金第2号被保険者又はその経験者、すなわち厚生年金に加入中のサラリーマン又はその経験のある者をいう。
また第3号被保険者とは第2号被保険者の被扶養配偶者をいう。

《時系列比較》

「生きがい」の意味

□　生きがいの意味については、「生きる喜びや満足感」が第1回調査時から継続して第1位であるが、第1回調査時から徐々に減少傾向にある。「心の安らぎ」が第3回調査時以降、継続して第2位であるが、前回から今回にかけて大きく増加した。一方、「生活のリズムやメリハリ」が第1回調査時から今回にかけて増加した。

□　生きがいの意味が、自らを高めて社会に貢献していくものから、単に自らの生活のため、生活するための手段という意味に置き換わってきている。

【問16-1】 生きがいの意味　（回答は2つまで）

	総数	生活の活力やはりあい	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや気晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	他人や社会の役に立っていると感じること	その他	無回答
≪第7回調査（令和3年）≫	1,448	416	210	498	560	160	273	125	119	88	12	0
(%)	－	28.7	14.5	34.4	38.7	11	18.9	8.6	8.2	6.1	0.8	0.0
≪第6回調査（平成28年）≫	1,288	367	204	374	525	157	246	111	134	86	6	0
(%)	－	28.5	15.8	29.0	40.8	12.2	19.1	8.6	10.4	6.7	0.5	0.0
≪第5回調査（平成23年）≫	2,693	770	343	793	1,172	358	468	359	458	239	17	0
(%)	－	28.6	12.7	29.4	43.5	13.3	17.4	13.3	17.0	8.9	0.6	0.0
≪第4回調査（平成18年）≫	1,992	593	213	486	840	160	412	284	440	272	23	58
(%)	－	29.8	10.7	24.4	42.2	8.0	20.7	14.3	22.1	13.7	1.2	2.9
≪第3回調査（平成13年）≫	3,189	831	325	851	1,291	277	559	582	898	544	20	16
(%)	－	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2,909	761	281	723	1,270	230	592	459	719	557	9	33
(%)	－	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3,051	1,073	217	760	1,433	297	597	679	－	777	8	30
(%)	－	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	－	25.5	0.3	1.0

出所：菅谷（2022a）

（注）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
第７回調査に関しては、約5千人の対象者のうち該当する1,448人の集計結果である。なお、第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

《時系列比較》

生きがいの有無

□　生きがいの有無について、「持っている」が、第2回調査時が約8割と最も高かったが、その後一貫して減少している。

【問16-2】 生きがいの有無　（単一回答）

	総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
≪第7回調査（令和3年）≫	1,448	578	249	387	234	0
(%)	100	39.9	17.2	26.7	16.2	0.0
≪第6回調査（平成28年）≫	1,288	561	174	341	212	0
(%)	100	43.6	13.5	26.5	16.5	0.0
≪第5回調査（平成23年）≫	2,693	1,505	313	381	494	0
(%)	100	55.9	11.6	14.1	18.3	0.0
≪第4回調査（平成18年）≫	1,992	1,133	156	260	364	79
(%)	100	56.9	7.8	13.1	18.3	4.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3,189	2,145	228	267	496	53
(%)	100	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2,909	2,280	151	194	248	36
(%)	100	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3,051	2,021	282	400	297	51
(%)	100	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

出所：菅谷（2022a）

（注）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
第７回調査に関しては、約5千人の対象者のうち該当する1,448人の集計結果である。なお、第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

《時系列比較》

生きがいの内容

□ 「生きがいの内容」は、「趣味」が一貫して第1位を占めている。前回第2位の「子ども」と、前回第3位の「配偶者」が今回逆転した。「ひとりで気ままにすごす」が前回から６％ポイント増加した。
□ 「仕事」は第2回調査時から前回第6回調査時まで一貫して減少傾向にあったが、今回初めて増加に転じた。

【問17】 生きがいの内容 （回答は3つまで）

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人との交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままにすごすこと	自分自身の内面の充実	SNSやネットをとおした交流	その他	無回答
≪第7回調査（令和3年）≫	1,448	277	634	156	51	69	155	467	427	165	202	340	118	29	32	0
(%)	－	19.1	43.8	10.8	3.5	4.8	10.7	32.3	29.5	11.4	14.0	23.5	8.2	2.0	2.2	0.0
≪第6回調査（平成28年）≫	1,288	232	601	154	39	78	135	357	467	161	151	225	130	23	23	0
(%)	－	18.0	46.7	12.0	3.0	6.1	10.5	27.7	36.3	12.5	11.7	17.5	10.1	1.8	1.8	0.0
≪第5回調査（平成23年）≫	2,693	552	1,404	424	98	152	367	742	1,214	401	322	449	338	44	44	0
(%)	－	20.5	52.1	15.7	3.6	5.6	13.6	27.6	45.1	14.9	12.0	16.7	12.6	1.6	1.6	0.0
≪第4回調査（平成18年）≫	1,992	539	828	320	62	122	310	462	1,070	374	323	246	262	25	25	63
(%)	－	27.1	41.6	16.1	3.1	6.1	15.6	23.2	53.7	18.8	16.2	12.3	13.2	1.3	1.3	3.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3,189	1,124	1,400	466	182	185	588	733	1,762	595	584	345	403	33	33	27
(%)	－	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	1.0	0.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2,909	944	1,094	352	136	205	516	498	1,051	401	463	204	310	16	16	5
(%)	－	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.6	0.2

出所：菅谷（2022a）

（注）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
第７回調査に関しては、約5千人の対象者のうち該当する1,448人の集計結果である。なお、第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

《団塊の世代の時系列比較》

団塊の世代における生きがいの有無の変遷

□ 団塊の世代における生きがいの有無については、「持っている」が第1回調査時（40～44歳）の59.0%から、前回第6回調査時（65～69歳）でも59.0%と変わっていなかったが、今回は52.9%に減少した。他の世代では生きがいの保有率が減少する中、団塊の世代はこれまで「生きがい」を保有し続けてきたが、今回は「生きがいの喪失」がうかがわれる。

【問16-2】 生きがいの有無 （単一回答）

		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	持っている	59.0%	72.8%	62.1%	58.0%	57.1%	59.0%	52.9%
2	前は持っていたが、今は持っていない	6.0%	5.8%	7.7%	8.8%	13.2%	9.9%	19.7%
3	持っていない	19.8%	11.6%	10.4%	15.1%	14.2%	15.5%	14.0%
4	わからない	15.2%	9.9%	19.8%	18.1%	15.5%	15.5%	13.4%

出所：菅谷（2022b）

（注1）団塊の世代とは、一般的には1947～1949年生まれを指すが、ここでは団塊の世代を含む5歳刻みの年齢階級(1947～1951年生まれ）で集計を行っている。
（注2）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
（注3）第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

団塊の世代における「生きがい」の意味の変遷

□　団塊の世代における生きがいの意味について、「生きる喜びや満足感」は常に最も多く、第1回調査の47.0%から今回も46.5%を維持していた。「生活の活力やはりあい」「生きる目標や目的」も2～3割程度を維持している。

□　「自分自身の向上」「何かをやりとげたと感じること」「他人や社会の役に立っていると感じること」については、加齢とともに徐々に減少し、「生活のリズムやメリハリ」「心のやすらぎや気晴らし」については、加齢とともに増加している。生きがいの意味が歳を重ねるにつれて、「何かをする」という具象的なものから、「生活のリズム」や「心のやすらぎ」という精神的なものに変わっている。

【問16-1】「生きがい」の意味　（回答は2つまで）

		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	生活の活力やはりあい	35.5%	24.4%	28.2%	30.4%	28.1%	28.0%	31.8%
2	生活のリズムやメリハリ	7.6%	8.1%	7.2%	11.9%	12.9%	15.5%	12.7%
3	心の安らぎや気晴らし	22.5%	20.9%	23.0%	28.1%	27.1%	29.8%	29.3%
4	生きる喜びや満足感	47.0%	42.7%	42.3%	42.7%	43.5%	42.2%	46.5%
5	人生観や価値観の形成	11.1%	7.8%	9.8%	9.3%	12.6%	15.5%	8.3%
6	生きる目標や目的	29.6%	25.9%	17.2%	19.1%	14.5%	17.4%	25.5%
7	自分自身の向上	25.8%	16.0%	19.9%	14.6%	12.9%	9.9%	7.6%
8	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	－	28.2%	31.1%	24.8%	23.3%	14.9%	10.8%
9	他人や社会の役に立っていると感じること	15.4%	17.4%	15.1%	13.7%	11.7%	10.6%	8.3%
10	その他	0.2%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%

出所：菅谷（2022b）

（注1）団塊の世代とは、一般的には1947～1949年生まれを指すが、ここでは団塊の世代を含む5歳刻みの年齢階級(1947～1951年生まれ）で集計を行っている。
（注2）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
（注3）第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

《団塊の世代の時系列比較》

団塊の世代における生きがいの内容の変遷

□ 団塊の世代における生きがいの内容の変遷は次のとおり。

✓ 「仕事」は、50歳代前半までは最も高いが、50歳代後半から低下し、65歳以降では1割程度にまで減少。一方で「趣味」「自分自身の健康づくり」「ひとりで気ままにすごすこと」が加齢とともに増加。

✓ 「子ども・孫・親などとの家族・家庭」が50歳代前半には54.3%あったが、以降は減少傾向となり、今回は33.1%まで減少。代わりに「配偶者・結婚生活」が加齢とともに増加傾向にあり、今回は39.5%まで増加。子どもが成長し、生きがいの対象から外れていく中、配偶者に生きがいを求めている様子がうかがえる。

【問17】生きがいの内容　（回答は3つまで）

		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	仕事	－	39.8%	43.3%	30.2%	15.1%	8.1%	11.5%
2	趣味	－	33.7%	41.3%	42.2%	52.7%	52.8%	47.1%
3	スポーツ	－	13.5%	16.6%	14.1%	14.8%	11.2%	10.2%
4	学習活動	－	2.9%	3.8%	5.1%	3.8%	4.3%	1.3%
5	社会活動（ボランティア含む）	－	3.2%	3.8%	6.3%	6.6%	13.0%	10.8%
6	自然とのふれあい	－	14.4%	19.7%	21.3%	22.7%	16.8%	17.8%
7	配偶者・結婚生活	－	15.0%	25.7%	23.1%	23.7%	27.3%	39.5%
8	子ども・孫・親などの家族・家庭	－	35.7%	54.3%	48.2%	39.1%	35.4%	33.1%
9	友人など家族以外の人との交流	－	10.7%	16.8%	18.0%	18.3%	16.1%	14.0%
10	自分自身の健康づくり	－	8.4%	10.8%	18.6%	19.2%	23.0%	29.3%
11	ひとりで気ままにすごすこと	－	6.3%	10.8%	14.7%	19.2%	20.5%	24.8%
12	自分自身の内面の充実	－	9.5%	14.2%	15.3%	13.2%	13.0%	8.3%
13	SNSやインターネットをとおした交流	－	－	－	－	－	－	1.3%
14	その他	－	0.6%	0.5%	0.3%	1.3%	1.9%	0.0%

出所：菅谷（2022b）

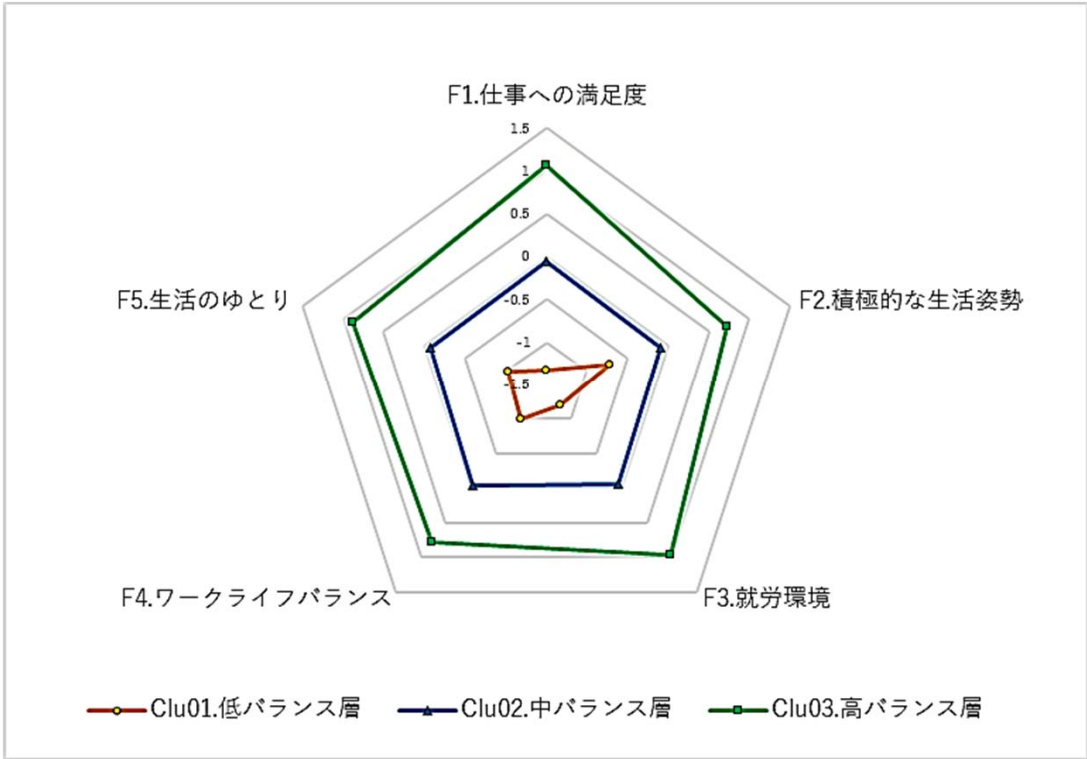
（注1）団塊の世代とは、一般的には1947～1949年生まれを指すが、ここでは団塊の世代を含む5歳刻みの年齢階級(1947～1951年生まれ）で集計を行っている。
（注2）条件を揃えて比較するため、第５回以降については「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB（企業年金の加入者および受給者）」を抽出している。
（注3）第1回～第4回は郵送調査、第5回以降はインターネット調査であるため、回答者の基本属性の相違があること、インターネット調査では無回答がないことに留意が必要である。

ワークライフバランスに関する典型的な３つのクラスター

□ 神原(2022) では、調査への回答に基づき因子分析を行い、抽出した５因子「**F1.仕事への満足度**」「**F2.積極的な生活姿勢**」「**F3.就労環境**」「**F4.ワークライフバランス**」「**F5.生活のゆとり**」を基準に非階層クラスター分析を行った結果、有意な人数比率の偏りがある３つのクラスターを得た。（有効回答者数3465人）

- 第１クラスター「**低バランス層**」： 644人、すべての因子において低得点
- 第２クラスター「**中バランス層**」：1907人、すべての因子において中間得点
- 第３クラスター「**高バランス層**」： 914人、すべての因子において高得点

図１ ： ３クラスターの因子特性



出所：神原（2022）

３つのクラスターの特徴

□ 神原(2022)では、これら３つのクラスターの特徴について、以下を含めて様々な分析を行っている。

✓ 「生きがいの意味」について、「生活の活力や張り合い」「生活のリズムやメリハリ」は、Clu02とClu03が高く、Clu01はこれらの項目よりも「心の安らぎや気晴らし」に生きがいの意味を強く見出しているようである（図9）。

✓ 生きがいを感じることについては、Clu03が仕事やスポーツ、家族や友人などとの交流に生きがいを見出しているのに対して、Clu01は「ひとりで気ままに過ごす」ことに最も生きがいを感じており、それ以外の項目については殆ど生きがいを見出していないようである（図11）。

注　Clu01：低バランス層、　Clu02：中バランス層、　Clu03：高バランス層

図９：生きがいの意味

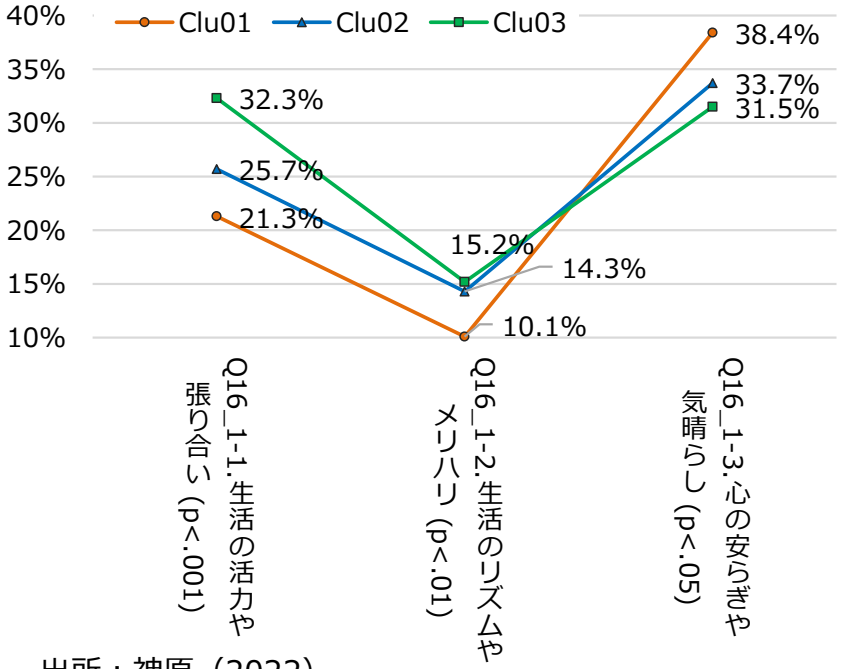
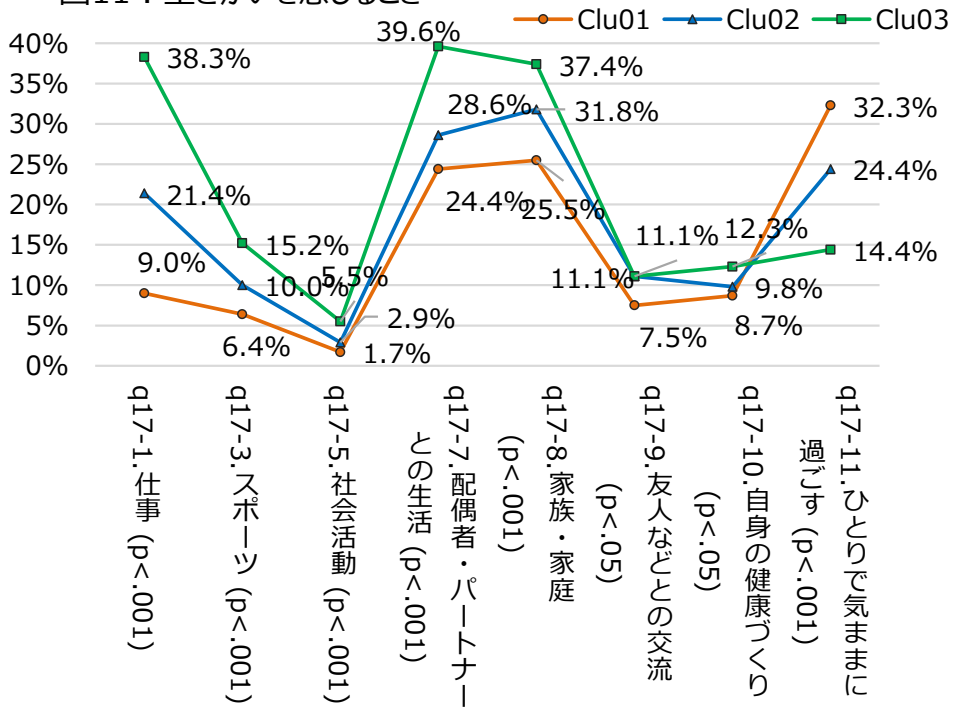


図11：生きがいを感じること



出所：神原（2022）

生きがい保有の規定要因

□ 大風(2022)は、生きがいを保有することに関連する要因を分析し、以下の結論を導いている。

✓ 生きがいの有無に対しては、男女共通して経済状態と配偶関係が影響。年収が高いことや、現在あるいは過去に配偶者がいたことは生きがいを持ちやすくしている。生きがいには経済的な基盤や家族形成による親密なネットワークの存在が重要なことを示唆している。

✓ 男性において、自営業が中心的キャリアの場合に生きがいを持てる傾向がある。仕事の内容や働き方に裁量の余地があるほうが生きがいを持ちやすいことを表していると考えられる。

✓ 女性において、学歴の低さとキャリアを通じて働いていないことが生きがいをもてないことに関連している。生きがいをもつためには一定の知識やネットワークが必要になることを示唆するものではないだろうか。

図表13　生きがいの保有の規定要因

***p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10

		全体				男性				女性			
	Ref:持っている	B		標準誤差	Exp(B)	B		標準誤差	Exp(B)	B		標準誤差	Exp(B)
持っていない	切片	0.913	*	0.355		1.053	*	0.495		0.836		0.512	
	年齢	-0.014	**	0.005	0.986	-0.013	*	0.007	0.987	-0.015		0.007	0.985
	男性ダミー	0.168	†	0.093	1.183								
	中学・高校卒ダミー	0.227	*	0.102	1.254	0.117		0.134	1.124	0.390	*	0.160	1.478
	短大・高専・専門ダミー	0.083		0.106	1.086	-0.094		0.171	0.910	0.225		0.140	1.252
	キャリア正社員ダミー	0.687	**	0.240	1.988	0.907	**	0.342	2.477	0.480		0.339	1.616
	キャリア契約ダミー	0.713	*	0.306	2.040	0.642		0.477	1.900	0.675	†	0.407	1.964
	キャリア派遣ダミー	0.712	*	0.322	2.039	1.380	*	0.666	3.974	0.405		0.407	1.499
	キャリアパートダミー	0.592	*	0.260	1.808	1.235	*	0.517	3.438	0.335		0.346	1.398
	キャリア無職ダミー	1.363	***	0.374	3.907	1.048		0.782	2.853	1.228	**	0.455	3.415
	年収	-0.001	***	0.000	0.999	-0.001	***	0.00017	0.999	-0.001	**	0.000	0.999
	既婚ダミー	-0.496	***	0.105	0.609	-0.560	***	0.137	0.571	-0.403	*	0.172	0.668
	離死別ダミー	-0.387	*	0.176	0.679	-0.621	*	0.253	0.538	-0.120		0.250	0.887
わからない	切片	-1.353	**	0.506		-1.468		0.802		-1.626	*	0.680	
	年齢	0.011	†	0.007	1.012	0.003		0.010	1.003	0.017	†	0.010	1.017
	男性ダミー	-0.257	*	0.124	0.774								
	中学・高校卒ダミー	0.364	**	0.133	1.439	0.068		0.184	1.070	0.716	***	0.202	2.047
	短大・高専・専門ダミー	-0.135		0.147	0.874	-0.552	*	0.27288	0.576	0.152		0.189	1.164
	キャリア正社員ダミー	0.889	*	0.358	2.433	1.363	*	0.623	3.907	0.586		0.450	1.797
	キャリア契約ダミー	0.365		0.464	1.441	1.307	†	0.759	3.693	-0.301		0.612	0.740
	キャリア派遣ダミー	0.958	*	0.451	2.607	1.624		0.988	5.072	0.603		0.533	1.828
	キャリアパートダミー	0.900	*	0.378	2.459	1.665	*	0.804	5.284	0.494		0.458	1.638
	キャリア無職ダミー	0.691		0.570	1.995	1.383		1.110	3.986	0.218		0.679	1.244
	年収	0.000	**	0.000	1.000	-0.001	*	0.000	0.999	0.000		0.000	1.000
	既婚ダミー	-0.671	***	0.138	0.511	-0.721	***	0.186	0.486	-0.593	**	0.215	0.552
	離死別ダミー	-0.784	**	0.245	0.457	-0.722	*	0.360	0.486	-0.739	*	0.338	0.478
	-2対数尤度	5078.456				2408.788				2645.775			
	Cox と Snell	0.054				0.060				0.056			
	Nagelkerke	0.062				0.069				0.064			
	サンプルサイズ	3194				1717				1477			

学歴のRef:大学・大学院卒ダミー，キャリアのRef:キャリア自営ダミー，配偶関係のRef:未婚ダミー

出所：大風（2022）

生きがいの対象とメンタルヘルス

□　13の生きがいの対象ごとに生きがいの保有とメンタルヘルスの関係を見ると、メンタルヘルスを良好にする生きがいの対象は、「仕事」「趣味」「スポーツ」「社会活動」「配偶者・パートナーとの生活」「子ども・孫・親などの家族・家庭」であり、逆に「ひとりで気ままに過ごすこと」については、生きがいではないと回答する人のほうがメンタルヘルスは良好である。

図表18 生きがいの対象とメンタルヘルス（ｔ検定）　　***p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10

生きがいの対象		サンプルサイズ	平均値	
仕事	生きがいでない	3119	14.9359	
	生きがいである	722	16.7382	***
趣味	生きがいでない	2274	15.0290	
	生きがいである	1567	15.6311	**
スポーツ	生きがいでない	3471	15.1608	
	生きがいである	370	16.3432	***
学習活動	生きがいでない	3715	15.2579	
	生きがいである	126	15.7698	n.s.
社会活動	生きがいでない	3739	15.2239	
	生きがいである	102	17.1373	***
自然とのふれあい	生きがいでない	3551	15.2636	
	生きがいである	290	15.4103	n.s.
配偶者・パートナーとの生活	生きがいでない	2629	14.6527	
	生きがいである	1212	16.6238	***
子ども・孫・親などの家族・家庭	生きがいでない	2510	14.7685	
	生きがいである	1331	16.2292	***
友人など家族以外の人との交流	生きがいでない	3425	15.2272	
	生きがいである	416	15.6659	n.s.
自分自身の健康づくり	生きがいでない	3451	15.3017	
	生きがいである	390	15.0359	n.s.
ひとりで気ままにすごすこと	生きがいでない	2898	15.6598	***
	生きがいである	943	14.0912	
自分自身の内面の充実	生きがいでない	3507	15.3114	
	生きがいである	334	14.8892	n.s.
SNSやネットをとおした交流	生きがいでない	3761	15.2842	
	生きがいである	80	14.8250	n.s.

出所：大風（2022）

「ひとり気ままにすごすことが生きがい」の規定要因

□ 大風(2022)によると、転職回数が多い人や家事分担の割合が高い人は「ひとりで気ままに過ごすことを生きがい」と考えるが、男性(女性に比べて)、短大・高専・専門卒(大学卒に比べて)、既婚者(未婚者に比べて)、地域活動への参加が多い人は「ひとりで気ままに過ごすことを生きがい」とは考えていない。

図表19 「ひとり気ままに過ごすことが生きがい」の規定要因 ***p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10

	全体				男性				女性			
	B		標準誤差	Exp(B)	B		標準誤差	Exp(B)	B		標準誤差	Exp(B)
男性ダミー	-0.259	*	0.115	0.772								
中学・高校卒	-0.001		0.109	0.999	-0.157		0.154	0.854	0.147		0.158	1.158
短大・高専・専門	-0.270	*	0.117	0.763	-0.166		0.203	0.847	-0.267	†	0.148	0.766
既婚ダミー	-0.870	***	0.144	0.419	-1.094	***	0.237	0.335	-0.692	**	0.211	0.501
離死別ダミー	-0.307	†	0.185	0.735	-0.698	*	0.293	0.497	-0.017		0.250	0.983
子どもありダミー	-0.160		0.120	0.852	0.092		0.216	1.097	-0.285	†	0.149	0.752
現職・正社員ダミー	0.206		0.277	1.229	0.385		0.387	1.469	-0.053		0.409	0.948
現職・契約ダミー	0.324		0.304	1.382	0.544		0.427	1.722	0.074		0.440	1.077
現職・パートダミー	0.538	†	0.293	1.712	0.521		0.496	1.683	0.326		0.400	1.385
現職・無職ダミー	0.552	†	0.292	1.737	0.664		0.491	1.942	0.356		0.399	1.427
収入400万円未満	0.152		0.138	1.164	0.119		0.214	1.127	0.204		0.190	1.227
収入400万円以上800万円未満	0.205	†	0.112	1.228	0.163		0.160	1.177	0.219		0.158	1.245
転職回数	0.134	**	0.045	1.143	0.090		0.063	1.094	0.174	**	0.065	1.190
地域活動への参加状況	-0.327	***	0.060	0.721	-0.326	***	0.084	0.722	-0.320	***	0.088	0.726
自身の家事分担	0.032	*	0.015	1.032	0.051	*	0.020	1.052	-0.007		0.025	0.993
定数	-0.822	*	0.359	0.440	-1.164	*	0.468	0.312	-0.558		0.519	0.572
-2対数尤度	3282.7				1594.8				1674			
サンプルサイズ	3194				1717				1477			
Cox-Snell R2 乗	0.071				0.079				0.054			
Nagelkerke R2 乗	0.107				0.124				0.078			

出所：大風（2022）

生きがいの対象、資産形成、メンタルヘルスの関連

□ 大風(2022)によると、教育年数が長いほど、収入が多いほどメンタルヘルスは良好になり、さらに資産形成の面では預貯金と不動産投資をしているとメンタルヘルスが良好になるが、未婚であると既婚に比べてメンタルヘルスが良くない、としている。しかし、「生きがいを感じる場」を変数に加えて分析すると、未婚のメンタルヘルスに対する影響はなくなり、家庭、仕事・会社、地域・近隣、個人的友人が生きがいを感じられる場であるほど、メンタルヘルスは良好になる、としている。

□ この分析結果から、生きがいを感じにくく、メンタルヘルスも良好ではなかった未婚者においても、生きがいを感じられる場があることでメンタルヘルスの悪化を防ぐことが可能になることが明らかになった、と指摘している。

図表 20 メンタルヘルス規定要因

***p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10

	モデル１			モデル２			モデル３		
	B		標準誤差	B		標準誤差	B		標準誤差
切片	10.717	***	1.213	10.628	***	1.219	7.901	***	1.182
年齢	0.028	*	0.013	0.024	†	0.013	0.027	*	0.012
男性ダミー	-0.457	†	0.255	-0.431	†	0.257	-0.254		0.247
教育年数	0.200	**	0.059	0.160	**	0.059	0.147	*	0.057
収入	0.002	***	0.000	0.002	***	0.000	1.454E-03	***	0.000
未婚ダミー	-0.650	*	0.261	-0.689	**	0.261	0.334		0.262
離死別ダミー	0.028		0.415	-0.009		0.414	0.353		0.400
現職・正社員ダミー	-0.944		0.588	-0.868		0.590	-0.648		0.565
現職・契約・派遣ダミー	-0.466		0.664	-0.348		0.664	-0.093		0.636
現職・パートダミー	-0.200		0.637	-0.078		0.637	-0.025		0.610
現職・無職ダミー	-0.055		0.630	0.055		0.630	0.350		0.616
預貯金				1.106	***	0.235	0.589	*	0.228
株式・債権				-0.002		0.264	0.083		0.253
投資信託				0.112		0.291	0.204		0.279
保険商品				0.220		0.269	0.030		0.258
不動産投資				1.377	*	0.546	1.399	**	0.523
iDeCo				0.011		0.366	0.070		0.350
財形貯蓄				-0.329		0.363	-0.537		0.348
NISA・つみたてNISA				0.332		0.309	0.065		0.296
生きがい・家庭							0.435	***	0.031
生きがい・仕事・会社							0.177	***	0.035
生きがい・地域・近隣							0.282	***	0.072
生きがい・個人的友人							0.183	***	0.043
生きがい・世間・社会							0.055		0.067
生きがい・インターネット							0.111	†	0.058
調整済みR2乗	0.035			0.043			0.126		

※配偶関係のRefは既婚ダミー、現職のRefは自営業ダミー

モデル1は年齢、性別、教育年数、収入、配偶関係、現職を投入した基本モデル。

モデル2は基本モデルに加えて老後の資産形成に関する変数を投入した資産形成モデル。

モデル3はモデル2に生きがいを感じる場に関する変数を加えた統合モデル。

出所：大風（2022）

生活満足度を規定しうる要因

□ 福山(2022)は、全般的な生活満足度を規定する可能性のある要因として以下の点などを指摘している。

✓ 生きがいの保有は、生活満足度に対して影響力が極めて大きい（サラリーマン本人、妻とも）。

✓ 次いで影響が大きいのは社会参加で、社会参加の程度が増えるほど生活満足度が上昇する。ただし、社会参加の程度は高いとは言えず、これをいかに高めていくかが課題。

✓ 生きがいの対象に「ひとりで気ままにすごすこと」を挙げた者の生活満足度は低下する（サラリーマン本人で強く有意、妻でもある程度有意）。年金ライフプランセミナーなどで生きがいを持つ意義を説明することは全く無意味ではないだろう。

✓ 年収が高いと生活満足度が上昇する（サラリーマン本人は強く有意、妻もかなり有意）。

表7　全般的な生活満足度についての重回帰分析

目的変数：全般	第2号				第3号			
説明変数：	係数		標準誤差	ΔR2	係数		標準誤差	ΔR2
生きがい保有D	6.177	***	0.263	0.114	6.737	***	0.448	0.154
社会参加	1.946	***	0.142	0.039	1.478	***	0.265	0.021
ひとり気ままD	-1.141	***	0.301	0.003	-1.567	**	0.497	0.007
年齢	0.044	*	0.017	0.001	0.113	***	0.029	0.010
年収	0.253	***	0.047	0.006	0.291	**	0.089	0.007
資産額	0.224	***	0.068	0.002	0.269	†	0.139	0.003
有配偶D	0.824	*	0.383	0.001	0.644		1.208	0.000
子どもありD	-0.160		0.335	0.000	-1.313	*	0.529	0.004
持ち家D	0.664	*	0.313	0.001	1.594	*	0.618	0.005
住宅ローンD	-0.182		0.338	0.000	-0.097		0.605	0.000
大卒以上D	0.089		0.267	0.000	0.163		0.475	0.000
過去正社員D	0.491		0.320	0.001	-0.010		0.453	0.000
配偶者正社員D	0.202		0.368	0.000	0.407		0.663	0.000
性別	0.989	***	0.297	0.002				
中間層D	1.005	†	0.530	0.001				
完全退職D	1.434	**	0.452	0.002				
定数項	-11.455	***	1.039	0.000	-12.151	***	2.213	0.000
調整済み決定係数	0.296				0.306			

***はp値が0.1%未満（強い有意性）
**は1%未満（かなりの有意性）
*は5%未満（ある程度の有意性）
†は10%未満（弱い有意性）

出所：福山（2022）

生きがい保有と各生活満足度の関連性

□ 生きがい保有と各生活満足度の関連性の強さについて、福山(2022)によると以下のとおり。

✓ 強い有意性を持って生きがい保有が最も大きく上昇するのは熱中できる趣味であり、次いで、精神的ゆとり、社会の役に立つこと、家族の理解・愛情、仕事のはりあいである。かなりの有意性を持って、自然とのふれあい、友人・仲間及び健康が、そして、ある程度の有意性を持って、住まいのことが続く。

✓ 時間的ゆとりはある程度有意に生きがい保有を減少させる。単に時間にゆとりがあるだけでは、かえって生きがいを持たない方に傾きがちになる。

✓ 経済的ゆとり、社会的地位、近隣との交流及びネット等を通じた交流は有意にならなかった。経済的なゆとりや社会的地位があってもそれだけで生きがいを持つことにはならない。

表15 生きがい保有と各生活満足度に関するロジスティック回帰

説明変数：	オッズ比		標準誤差
健康	1.158	**	0.051
時間的ゆとり	0.895	*	0.042
経済的ゆとり	1.064		0.045
精神的ゆとり	1.444	***	0.079
家族の理解・愛情	1.274	***	0.063
友人・仲間	1.165	**	0.059
熱中できる趣味	1.648	***	0.072
仕事のはりあい	1.245	***	0.062
社会的地位	0.950		0.054
自然とのふれあい	1.174	**	0.057
近隣との交流	0.983		0.048
ネット等での交流	0.948		0.040
社会の役に立つ	1.368	***	0.079
住まいのこと	1.111	*	0.054

***はp値が0.1%未満（強い有意性）
**は1%未満（かなりの有意性）
*は5%未満（ある程度の有意性）
†は10%未満（弱い有意性）

（注１）オッズはある比率rについて「r/(1-r)」で定義される。例えば、目的変数である「生きがい保有」のオッズとは「生きがいを持っている者の比率÷それ以外の者の比率」である。
（注２）ロジスティック回帰ではオッズ比が表示される。これは他の説明変数が変わらないという条件で、説明変数が1単位変化した場合の目的変数のオッズの変化率を表す。表示されるのはオッズの比であるので1が中立であり、1を上回ると増加、下回ると減少を意味する。

出所：福山（2022）

資産形成と生活満足度の関係

□ 菅谷(2022c)によると、どの金融商品であっても「資産形成をしている人」は、「資産形成をしていない人」より、「経済的ゆとり」のみならず「時間的ゆとり」「精神的ゆとり」においても満足している者の割合が高い。
また「不動産」を所有している人は他の商品よりも満足度が高く、「株式・債券」「投資信託」を所有する人は「預金」よりも満足度が高い。

(2)時間的ゆとり

	満足度DI	十分満たされている		まあ満たされている		どちらともいえない		やや欠けている		全く欠けている	
1:預金	38.2%	346	12.2%	1,234	43.7%	748	26.5%	381	13.5%	118	4.2%
2:株式・債券	42.8%	151	13.4%	511	45.4%	284	25.2%	136	12.1%	44	3.9%
3:投資信託	41.2%	124	14.5%	368	42.9%	226	26.4%	107	12.5%	32	3.7%
4:保険	41.8%	94	14.4%	295	45.0%	151	23.1%	93	14.2%	22	3.4%
5:不動産	49.7%	32	18.7%	71	41.5%	50	29.2%	13	7.6%	5	2.9%
6:iDeCo	18.8%	25	8.7%	109	37.8%	74	25.7%	57	19.8%	23	8.0%
7:財形	26.3%	26	9.1%	114	40.0%	80	28.1%	51	17.9%	14	4.9%
8:NISA	40.6%	95	14.4%	298	45.0%	145	21.9%	94	14.2%	30	4.5%
9:その他商品	39.3%	16	14.3%	49	43.8%	26	23.2%	14	12.5%	7	6.3%
10:資産形成をしていない	20.7%	72	9.8%	247	33.7%	247	33.7%	123	16.8%	44	6.0%
合計(重複回答削除したネット回答者数)	-	462	11.8%	1,619	41.2%	1,108	28.2%	558	14.2%	182	4.6%

(3)経済的ゆとり

	満足度DI	十分満たされている		まあ満たされている		どちらともいえない		やや欠けている		全く欠けている	
1:預金	12.9%	151	5.3%	987	34.9%	917	32.4%	518	18.3%	254	9.0%
2:株式・債券	30.0%	86	7.6%	483	42.9%	326	29.0%	150	13.3%	81	7.2%
3:投資信託	31.5%	61	7.1%	369	43.1%	267	31.2%	123	14.4%	37	4.3%
4:保険	27.3%	49	7.5%	275	42.0%	186	28.4%	99	15.1%	46	7.0%
5:不動産	45.6%	24	14.0%	78	45.6%	45	26.3%	17	9.9%	7	4.1%
6:iDeCo	17.7%	17	5.9%	113	39.2%	79	27.4%	53	18.4%	26	9.0%
7:財形	16.8%	15	5.3%	108	37.9%	87	30.5%	50	17.5%	25	8.8%
8:NISA	26.4%	49	7.4%	275	41.5%	189	28.5%	103	15.6%	46	6.9%
9:その他商品	20.5%	14	12.5%	39	34.8%	29	25.9%	18	16.1%	12	10.7%
10:資産形成をしていない	▲38.9%	16	2.2%	90	12.3%	236	32.2%	206	28.1%	185	25.2%
合計(重複回答削除したネット回答者数)	-	189	4.8%	1,176	29.9%	1,271	32.3%	807	20.5%	486	12.4%

(4)精神的ゆとり

	満足度DI	十分満たされている		まあ満たされている		どちらともいえない		やや欠けている		全く欠けている	
1:預金	15.8%	155	5.5%	1,025	36.3%	914	32.3%	533	18.9%	200	7.1%
2:株式・債券	24.0%	83	7.4%	446	39.6%	338	30.0%	184	16.3%	75	6.7%
3:投資信託	23.8%	58	6.8%	335	39.1%	275	32.1%	139	16.2%	50	5.8%
4:保険	22.3%	43	6.6%	266	40.6%	183	27.9%	121	18.5%	42	6.4%
5:不動産	35.7%	17	9.9%	72	42.1%	54	31.6%	23	13.5%	5	2.9%
6:iDeCo	5.9%	15	5.2%	91	31.6%	93	32.3%	54	18.8%	35	12.2%
7:財形	10.2%	11	3.9%	102	35.8%	88	30.9%	57	20.0%	27	9.5%
8:NISA	20.1%	49	7.4%	250	37.8%	197	29.8%	112	16.9%	54	8.2%
9:その他商品	28.6%	13	11.6%	43	38.4%	32	28.6%	20	17.9%	4	3.6%
10:資産形成をしていない	▲8.2%	41	5.6%	154	21.0%	283	38.6%	176	24.0%	79	10.8%
合計(重複回答削除したネット回答者数)	-	229	5.8%	1,288	32.8%	1,313	33.4%	780	19.9%	319	8.1%

「満足度DI（%）」とは、「十分満たされている」又は「まあ満たされている」と回答した者の割合から「やや欠けている」又は「全く欠けている」と回答した者の割合を控除したものである。

出所：菅谷（2022c）

配偶関係や現役時代の働き方と完全引退後の家計

□ 65歳以上の高齢者を配偶関係や夫婦を含め現役時代の働き方別に分類し、完全引退後に家計が苦しくなったどうかについて尋ねた回答状況によると、

✓ 独身者では、女性より男性の方が完全引退後に家計が苦しくなったと回答している者が多い。男性の独身者が相対的に老後の資産形成をしている者の割合が低い影響が考えられる。

✓ 有配偶者の世帯について見ると、「正社員と無職中心」の専業主婦世帯の該当者率は31%で、「夫婦とも正社員中心」や「正社員と非正規労働中心」の共働き世帯よりも10%ポイント前後高い。家計の収入源を一人の労働収入に頼らざるをえない専業主婦世帯ほど、夫の労働市場引退前後で家計のやりくりに苦慮している姿がうかがえる。

表８　完全引退後に家計が苦しくなった者の割合

世帯類型	該当者率（%）	標本数	世帯類型	該当者率（%）	標本数
男性未婚	41.4	29	夫婦とも正社員中心	20.4	226
男性離別	40.0	15	正社員と非正規労働中心	19.7	122
男性死別	33.3	18	正社員と無職中心	31.0	87
女性未婚	19.0	21	正社員と自営業中心	15.8	19
女性離別	26.9	26	夫婦とも非正規労働者中心	42.9	7
女性死別	25.0	16	夫婦とも無職中心	16.7	24
独身者合計	31.2	125	有配偶者計	22.1	485

出所：丸山（2022）

高齢世帯の収入源

□ 65歳以上の世帯の各収入源の割合をみると

✓ 独身世帯では、男女とも、公的年金収入が世帯収入の最も大きな収入源である。特に、世帯収入額が相対的に低い男性未婚者世帯では公的年金の割合は7割を超える。女性の離別者、死別者世帯では公的年金の割合は6割前後にとどまり、就労収入で補っている可能性は高い。

✓ 高齢夫婦世帯では、夫婦とも正社員であった世帯であっても妻の公的年金の割合は2割に満たない。正社員と無職中心の世帯では、夫の公的年金の割合は5.4割、妻の公的年金の割合は1.6割で、世帯収入の約7割が公的年金である。

表９　独身者の世帯年収に占める各収入源の割合

（単位：割）

	公的年金	企業年金	個人年金	給与	不動産収入・利息・配当金	その他	合計
男性未婚	7.43	0.60	0.45	0.75	0.50	0.28	10.00
男性離別	5.58	0.77	0.08	2.38	0.23	0.96	10.00
男性死別	6.55	0.90	0.35	0.95	0.85	0.40	10.00
女性未婚	6.09	0.96	1.13	0.70	1.04	0.09	10.00
女性離別	5.91	0.38	0.76	2.09	0.41	0.44	10.00
女性死別	6.45	0.82	0.64	1.18	0.36	0.55	10.00
合計	6.40	0.70	0.56	1.36	0.54	0.44	10.00

表10　高齢夫婦のいる世帯における世帯収入に占める各収入源の割合

（単位：割）

	公的年金		企業年金		個人年金		給与		不動産収入・利息・配当金	その他	合計	標本数
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻				
夫婦世帯合計	4.75	1.78	0.67	0.22	0.30	0.12	1.03	0.47	0.39	0.25	10.0	599
夫婦とも正社員中心	4.57	1.97	0.90	0.28	0.26	0.10	0.94	0.50	0.39	0.30	10.0	283
正社員と非正規労働者中心	4.73	1.63	0.63	0.21	0.25	0.10	1.44	0.61	0.28	0.09	10.0	152
正社員と無職中心	5.42	1.60	0.40	0.10	0.37	0.09	0.80	0.12	0.50	0.19	10.0	104

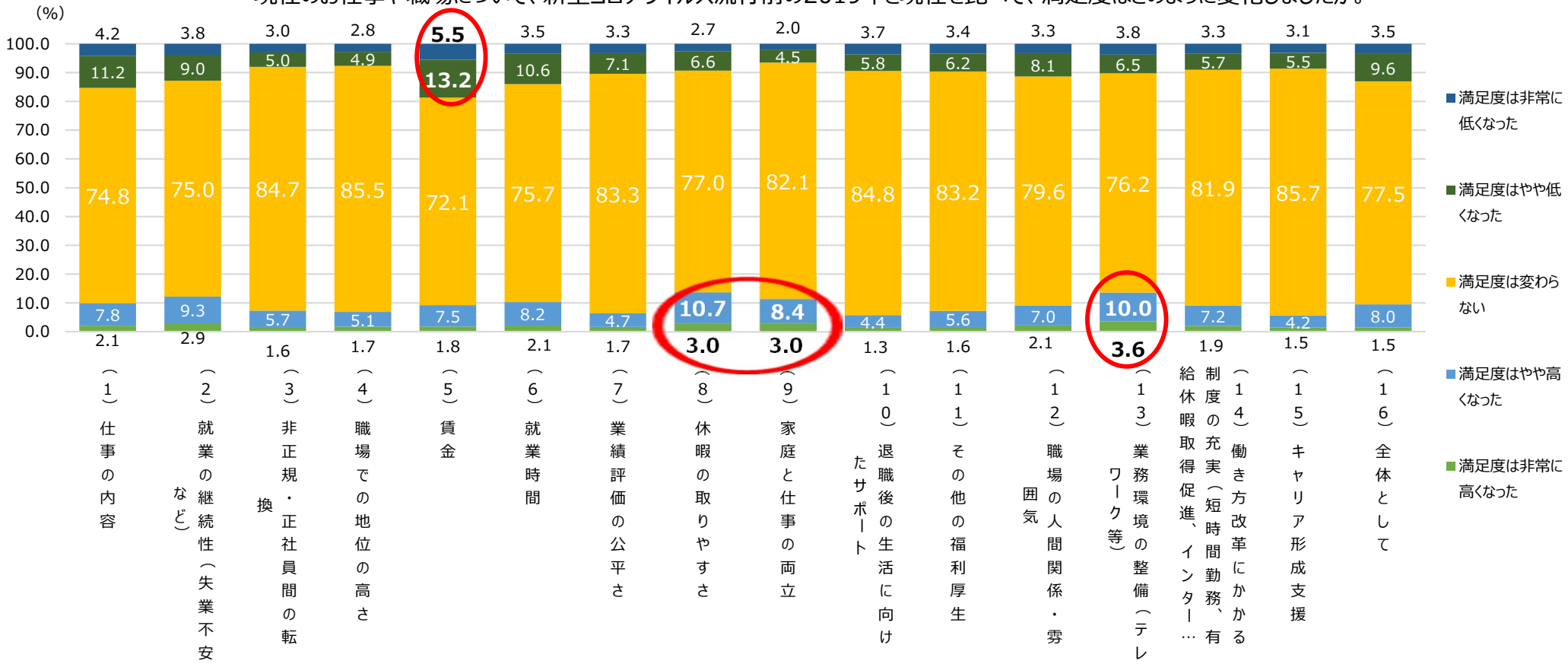
出所：丸山（2022）

《新型コロナウイルス流行前との比較》

仕事の満足度の変化

□　仕事の満足度を新型コロナウイルス流行前の2019年と比較すると、ほとんどの項目で満足度は「変わらない」との回答が大多数であった。ただし、賃金については「満足度がやや低くなった」「満足度の非常に低くなった」が比較的多く、その一方で、休暇の取りやすさや家庭と仕事の両立といった項目に関しては「やや高くなった」との回答が多い。

現在のお仕事や職場について、新型コロナウイルス流行前の2019年と現在を比べて、満足度はどのように変化しましたか。

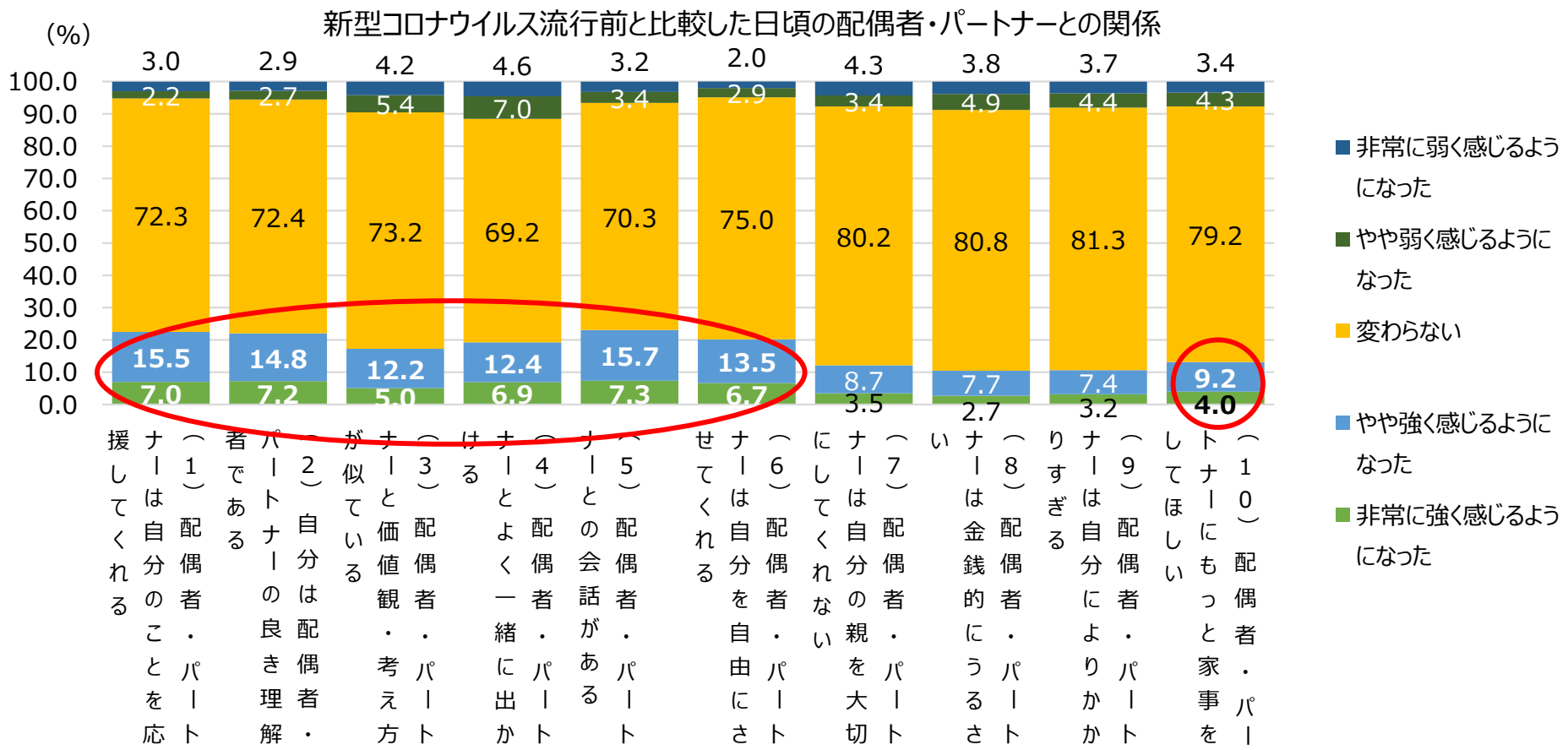


出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

《新型コロナウイルス流行前との比較》

配偶者・パートナーとの関係の変化

□ 新型コロナウイルス流行前の2019年と比較して、調査時点では、配偶者・パートナーとの関係は「変わらない」との回答が大多数であった。ただし、一部の回答者では、相手のポジティブな面と、家事負担への不満をより一層強く意識するようになった可能性がある。



出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

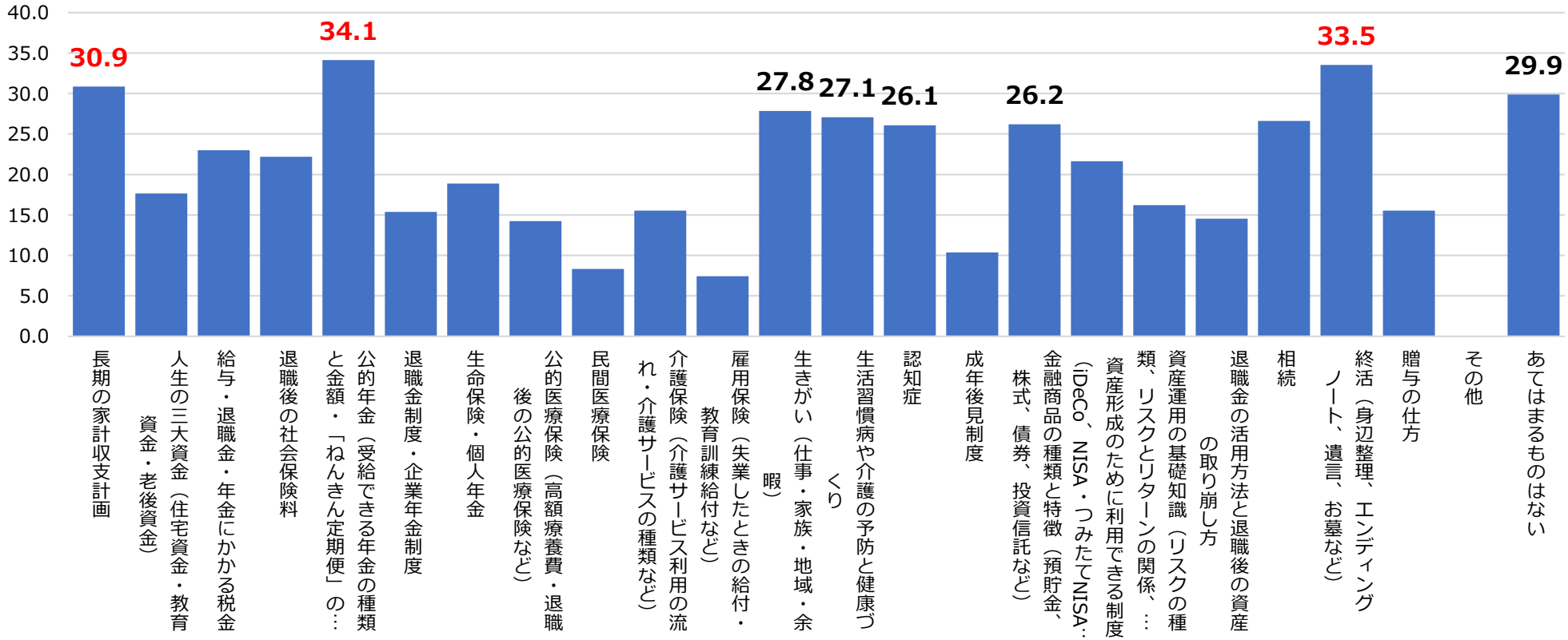
《ライフプランセミナーで学びたいこと》

ライフプランセミナーで学びたいこと（１）

□　年金シニアプラン総合研究機構では、年金ライフプランセミナーを開催し、サラリーマンの方々の定年退職後の生活がより充実したものとなるよう生活設計に関する知識や情報を提供している。今回の調査では、このセミナーで学びたいことについて質問を行った。

□　その結果、ライフプランセミナーで学びたいことについては、「公的年金」との回答が34.1%と最多であり、「終活」33.5%、「長期の家計収支計画」30.9%が続く。

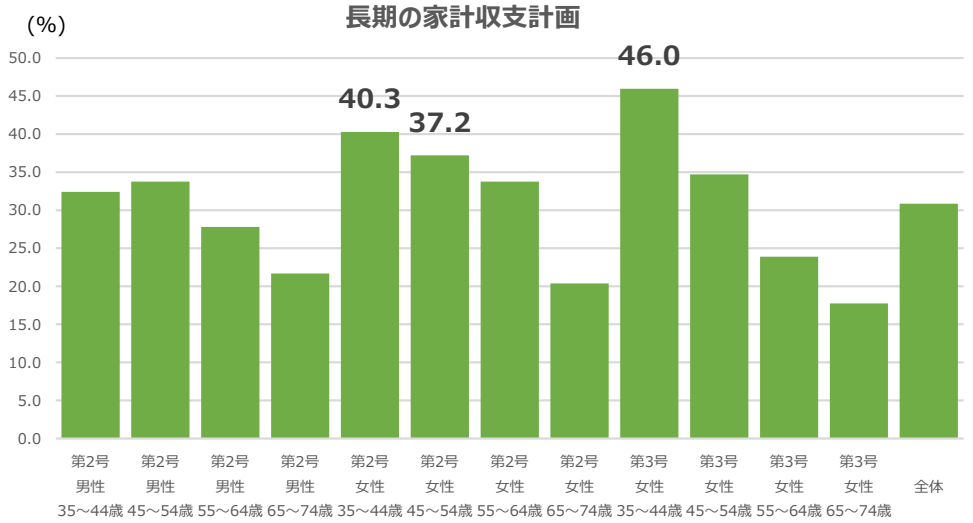
ライフプランセミナーで学びたいこと（性・年齢階級計）

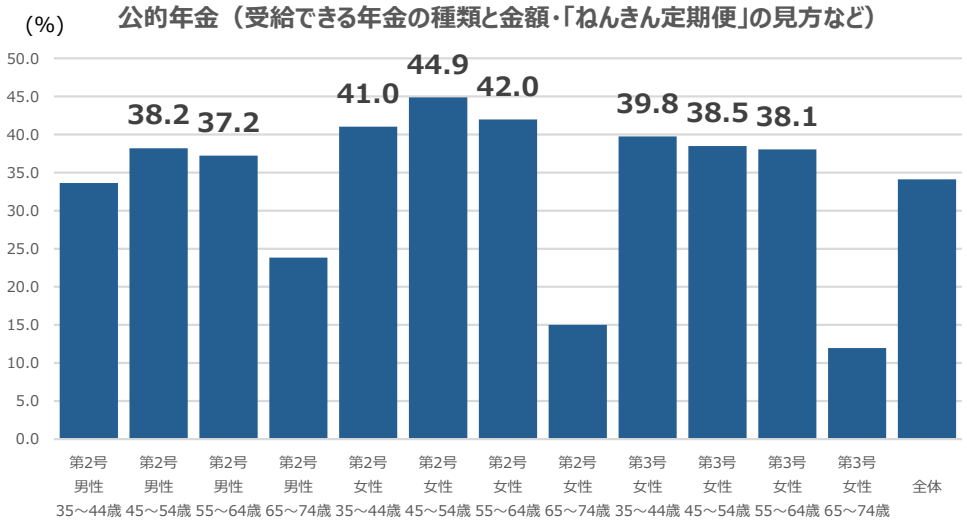


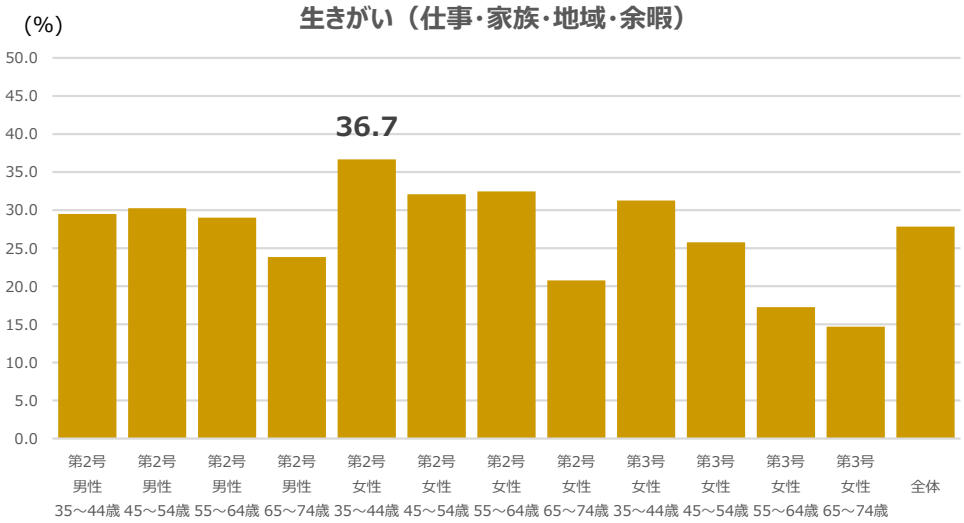
出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

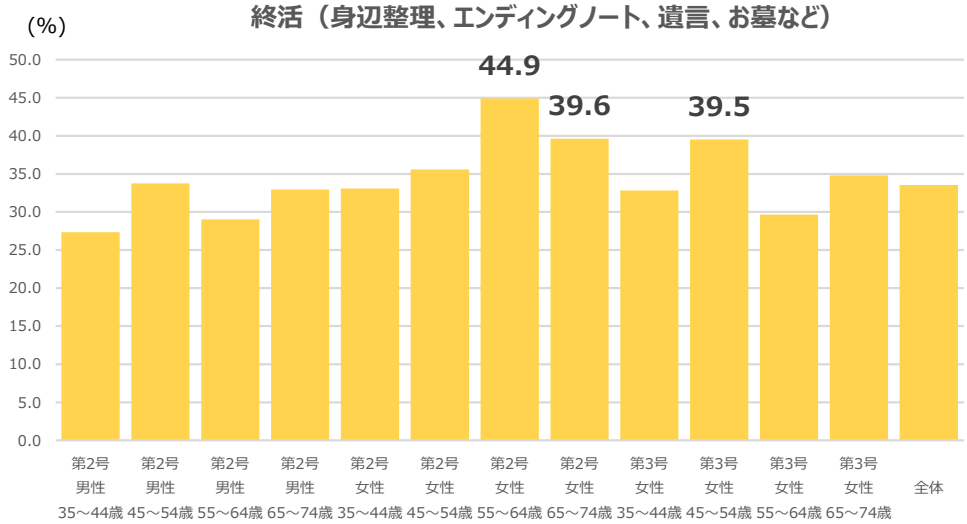
ライフプランセミナーで学びたいこと（２）

□ 「長期の家計収支計画」「公的年金」「生きがい」」「終活」の４項目については、性・年齢階層等によっては3人に1人以上がライフプランセミナーで学びたいと回答している。









出所：平河・山本（2022）に基づき作成。

参考文献

大風薫(2022)「現役世代の生きがいとメンタルヘルス　－階層、ライフイベント、資産形成に注目して」

神原理(2022)「サラリーマンのワークライフバランス　－その影響要因と階層構造－」

菅谷和宏(2022a)「サラリーマンの生活と生きがいの変化（時系列分析）：第1～7回『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査』の調査結果」

菅谷和宏(2022b)「サラリーマンの生活と生きがいの変化（団塊の世代を追って）：第1～7回『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査』の調査結果」

菅谷和宏(2022c)「サラリーマンの生活と生きがい（資産形成と生きがいの関係）：第7回『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査』の調査結果」

丸山桂(2022)「女性のライフコースの多様化と老後の所得保障　－「モデル年金」指標の有効性を問う－」

福山圭一(2022)「サラリーマンとその妻にとっての生きがいと生活満足度」

平河茉璃絵(2022)「第７回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査：調査の目的と方法」

平河茉璃絵、山本進(2022)「第7回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査：調査結果の概要及び男女別・年齢階層別比較」

※上記の文献は、当機構ウェブジャーナル『年金研究』第19号(2022年3月）に収録されています。
https://www.nensoken.or.jp/publication/nenkinkenkyu/